

こんにちは。1年間の留学もいよいよ残り1ヶ月となり、私にとってアメリカで過ごす最後のセメスターの半分が終わりました。当初、アメリカに知り合いは一人もいませんでしたが、今はサンディエゴで出会ったホストファミリーやハウスメイト、友だちと別れたくない気持ちと、帰国したい気持ちが混ざり複雑な心境ですが、毎日元気に過ごしています。

3月から5月までの春セメスターは、コミュニケーションに重点を置いたプログラム(IEC: Intensive English Program)を受講しました。またそれに加え、ビジネス英語プログラム(BGP: Business for Global Practice)も受講できるレベルに到達していたので、ロールプレイを用いた価格交渉技術や、様々な企業をSWOT分析し、企業の果たす役割についてのディスカッション、新企画や新商品のプレゼンや資金計画の提案なども行いました。授業はスピード感があり、また既に海外でのビジネス経験のあるクラスメイトの存在や専門用語の多さには圧倒されましたが、自分の知らなかった分野を英語で学ぶことはとても新鮮で毎日がとても楽しかったです。ビジネスという視点を初めて勉強してみて、自分の目の前にいる患者さん一人ひとりのために全力を尽くせる「看護」に魅力を感じると同時に、ビジネスのようにもっと広い視野で最大の結果を出すために、医療の知識も交えながら支援計画を考える「地域保健」にもとても興味がわきました。今はまだアメリカで英語を勉強して過ごしていますが、帰国してから始まる実習へのモチベーションも上がり、なによりもっと看護を勉強したいという気持ちでいっぱいです。

また、春セメスターでは大学の授業聴講の許可が取れたので、私は現地の学生と一緒に公衆衛生学部(Public Health)で国際保健(International Health)の講義を2ヶ月間とりました。講義は週2回で各2時間40分のノンストップ、1つの授業内で扱われるトピックは最低3つあり、トピックごとの専門用語の違いと多さに、ノートをとるのにも苦労しましたが、録音を聞き直したり、毎回レポートを作成するなどをして、少しずつですが知識や単語を増やし乗り越えることができました。授業では、栄養状態、環境問題、女性と小児の健康や各国の保険制度など幅広いトピックにふれることができました。

これまでの振り返ると、語学面での学びも多いですが、人として成長できた部分が大きいように感じます。いまだにクラスのディスカッションで目立つ?ことはできませんが、自分が感じたほかの人とは違う視点を言葉にすることや、何かに行き詰ったときに、悩むだけではなく、よくするための方法を「考える」ということが自分に足りない能力で、今自分が努力をしている部分です。残りの1か月は、語学と自分磨きの総まとめをするともに、サンディエゴで出会った人たちと過ごせる時間をたくさん作り、楽しみたいと思います。



5月にNYを旅行しグランドゼロを見学しました。



カリフォルニアで有名なカールスバッドフラワーフィールド



11か月間一緒に暮らしていたハウスメイトは国を超えた親友です！



ホストマザーの作ったケーキで最高の誕生日もアメリカで迎えることができました！



サンディエゴにあるラホヤビーチ